



皆野中だより 特別号



令和4年11月1日発行 第9号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるころ
【学校教育目標】「主体性」「社会性」「将来性」を培う生徒の育成
～人とつながる・人をつなぐ・人につなげる学校～
生徒数 1年86名 2年71名 3年82名 合計239名

産土(うぶすな) = 生地皆野の宝 校長 小菅恭青史

去る10月26日(水)、俳人の金子兜太さんを師事している田中亚美先生をお迎えし、「俳句教室 IN 皆野中」を実施しました。俳句の町・皆野町を盛り上げ、子供たちが俳句を学び、俳句を楽しめる機会としたいと考えました。

夏休みの課題として生徒・教職員から集めた446句を予め送付しておき、選抜をお願いしておきました。田中先生はその一句一句を丁寧に詠み、最優秀作品5句、秀逸作品10句、特選作品20句を選んだだけでなく、投句作品のすべてに自ら講評を書き、印刷して一人一人に配付してくださいました。どんな作品に対しても好奇心を抱き、激励の言葉を添えてくださいました。すると、どうでしょう。子供たちの作品が、単なる俳句ではなくて、ふるさと皆野を愛する一人の人間として、五感を使い、韻律を工夫しながら創っているのが想像できてしまうのです。「これは天性かもしれませんよ。」と仰っていました。

以下、選ばれた作品一覧です。 [田中亚美先生選]

最優秀作品五句

夕立に揺られ流れる草の舟

三年 持田朋樹

ひぐらしと秒針の音が響く夜

三年 鈴木奈海

新緑の天空彩るひなげしや

三年 引間優月

四拍子屋台ばやしと夏の雷

二年 上田拓斗

薪作る父の応援蝉しぐれ

一年 山口遼人

一句目、光景が目には浮かびます。二句目、静かな空間での音の比較が絶妙。三句目、美しい皆野のポピー畑です。四句目、まさに激しい音の共演です。五句目、汗と熱さと音と時間の長さを感じます。
(評 小菅恭青史)

秀逸作品十句

- 見上げれば葉桜通りし陽の光
三年 山口裕人
- 川遊び友との復路夏の宵
三年 倉林颯良
- 久しぶり会話が続く夏祭り
三年 島崎凜乙音
- 土砂崩れ熱い夏の始まりだ
二年 逸見カレラ
- 祖母の家いごと食べる肉うまし
二年 山中心響
- コロナ禍のお盆の土産マスクメロン
二年 吉田琉愛
- 夏だけは生活したいよ魚の世界
二年 南 心綺
- 凄えなと父が指さす入道雲
一年 新井美空
- リンリンとトマト熟れても食べられぬ
一年 関和秀樹
- 短夜や蝉は空蝉優女の木
一年 嶋田杜和

特選作品二十句

- よくすんだ薄暗い夜に花火咲く
三年 長島夢芽
- みな笑うドンと光って舞う花火
三年 谷 汰斗
- 炎昼にしばらくぶりの映画館
三年 太田陽菜
- 日を浴びて流した汗を思い出す
三年 根岸 遥
- 蝸の声こだまする空の部屋
三年 青木優志
- セミの声響く中庭増す暑さ
三年 大濱歩南未
- 夜の華秩父囃子と舞い踊る
三年 田島 遼
- 雷が鳴りやまぬ日は眠れぬ日
三年 福島湧貴
- 夏祭り響く太鼓に踊り出す
三年 新井悠斗
- 朝蝉のアラーム音で起床する
二年 荒船真咲
- マスクでも祭りで友と笑う夏
二年 小林然人
- 口と手にあふれる甘さ熟れた桃
二年 南 有花
- コロナかないつまで心配させるんだ
二年 黒澤さち
- 星の下セミの鳴き声野に響く
二年 門平幸大
- いとおしいまだ染まらぬ葉秋を待つ
一年 関口涼夏
- ひまわりが下を向くほど暑い夏
一年 田村心優
- 目をかくし絆たしかめスイカ割り
一年 中田莉彩
- 気圧痛くるしむ母を看病し
一年 伊勢琉香
- 熱帯夜ささいなこと喧嘩した
一年 大澤悠人
- 美ら島の祖父との釣りはいつ叶う
一年 高嶺朝人
- 盆の空町中照らす輝く輪
一年 轟あまね
- 在りし日の
父母甦る鉄風鈴
(小菅恭青史)
- 数学の
公式と一緒に夢の中
(扇原辰拓)
- さまざまに
駅舎に響く舌鼓
(江尻貴光)
- 甥三人
素麺七束湯がきたり
(瀧口亜季)
- Withコロナ
暑気あたりにも
気をつけて
(金子拓哉)

職員五句